

# ドライブシミュレーターを用いた 自動車運転リハビリテーション (driving rehabilitation)

---

桔梗ヶ原病院 リハビリテーション部  
佐藤理恵, 松塚翔司, 園原和樹

# はじめに

---

近年、ドライブシミュレーター(以下DS)を使用し、運転適性の評価を実施する医療機関が増えている。

しかし、DSをリハビリテーション訓練として実施との報告は少ない。

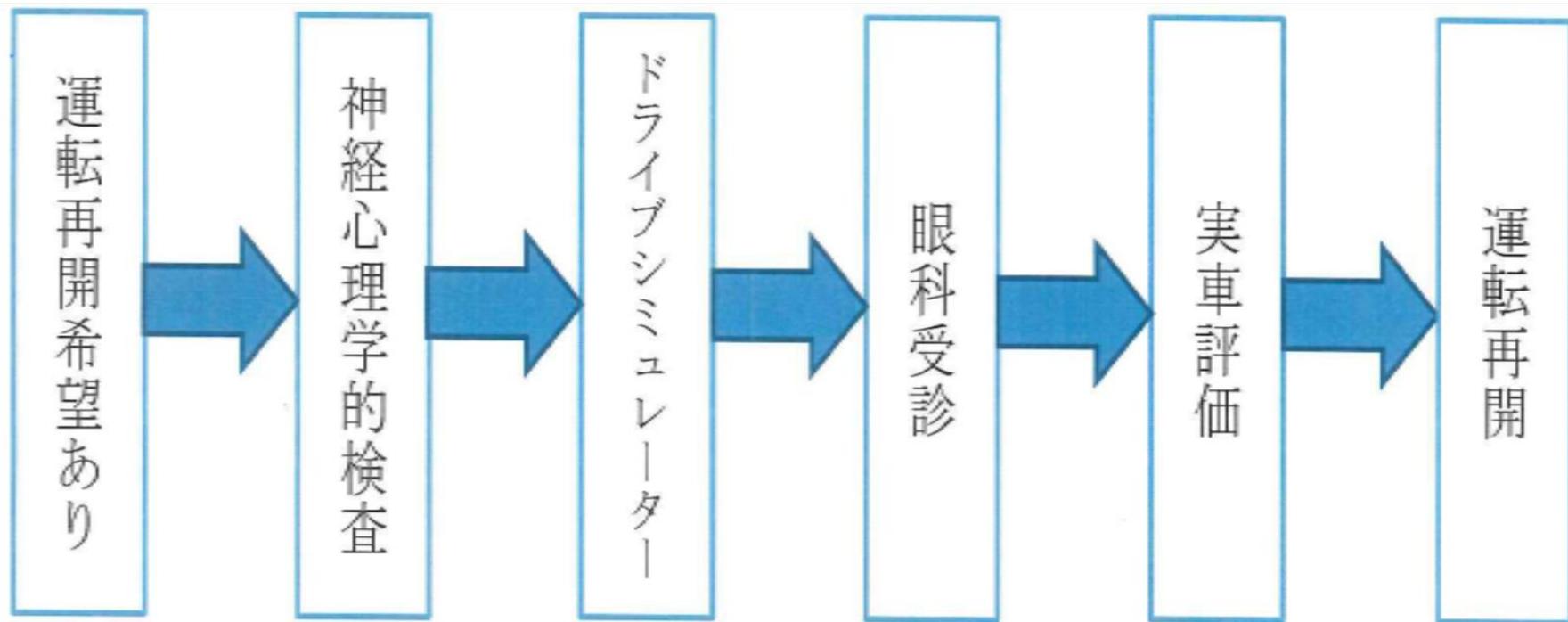
今回、DSを用いた自動車運転リハビリテーションを施行した8症例について報告する。

# 対象

---

- 2018年2～11月に当院へ入院し、DS訓練を行った8名
- 年齢平均：53.4±10.3歳(41～70歳)
- 性別：男性8名
- 疾患：脳血管障害7名、頭部外傷1名

# 当院における運転支援の流れ



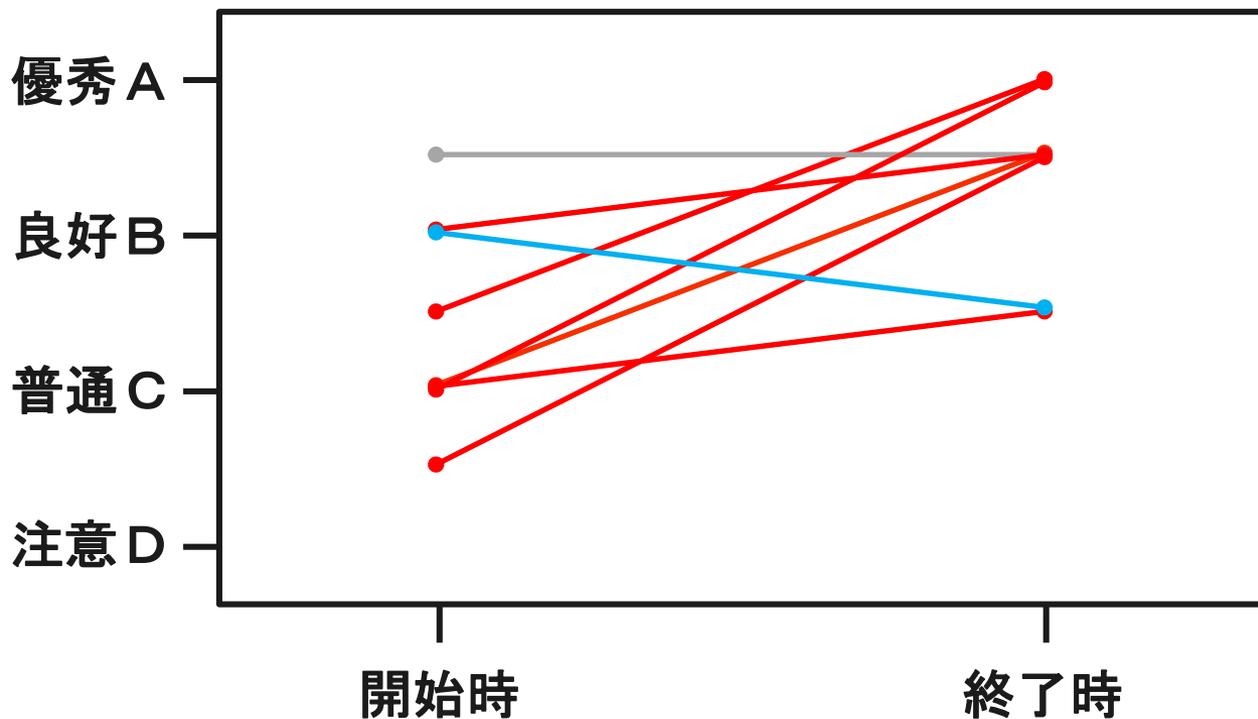
平均DS訓練期間  
43日

運転再開率  
100%  
(8/8名)

# 結果①運転反応検査

DS訓練により運転反応検査が改善

[中央値] 8/6症例



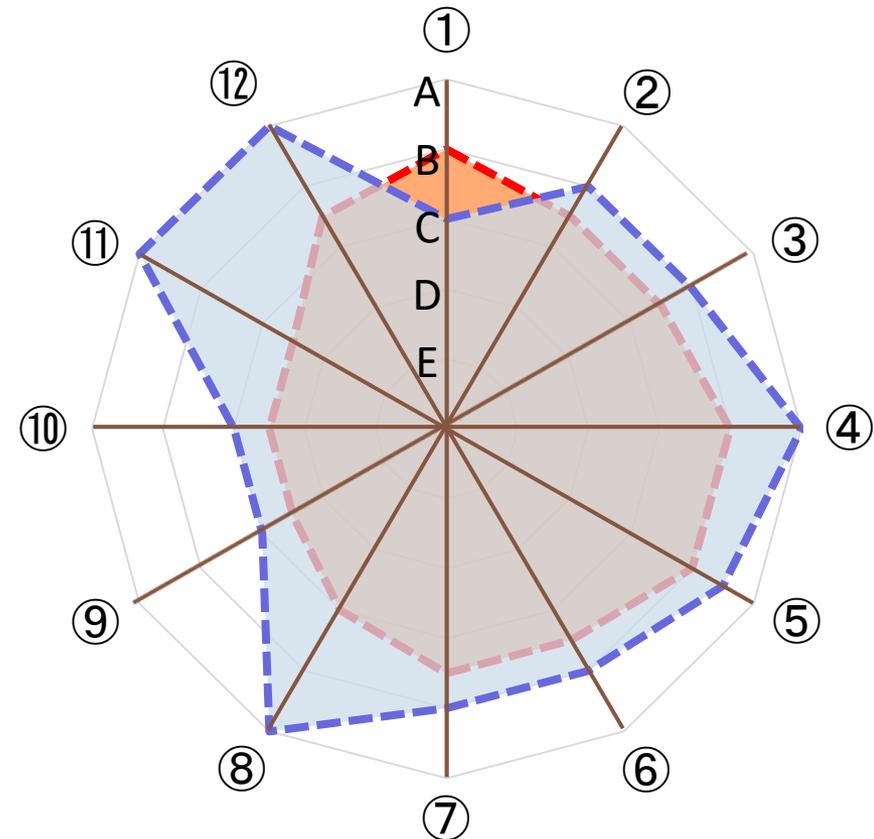
DE数 3.8 → 0.1

# 結果②運転反応検査

## DS訓練により運転反応検査が改善

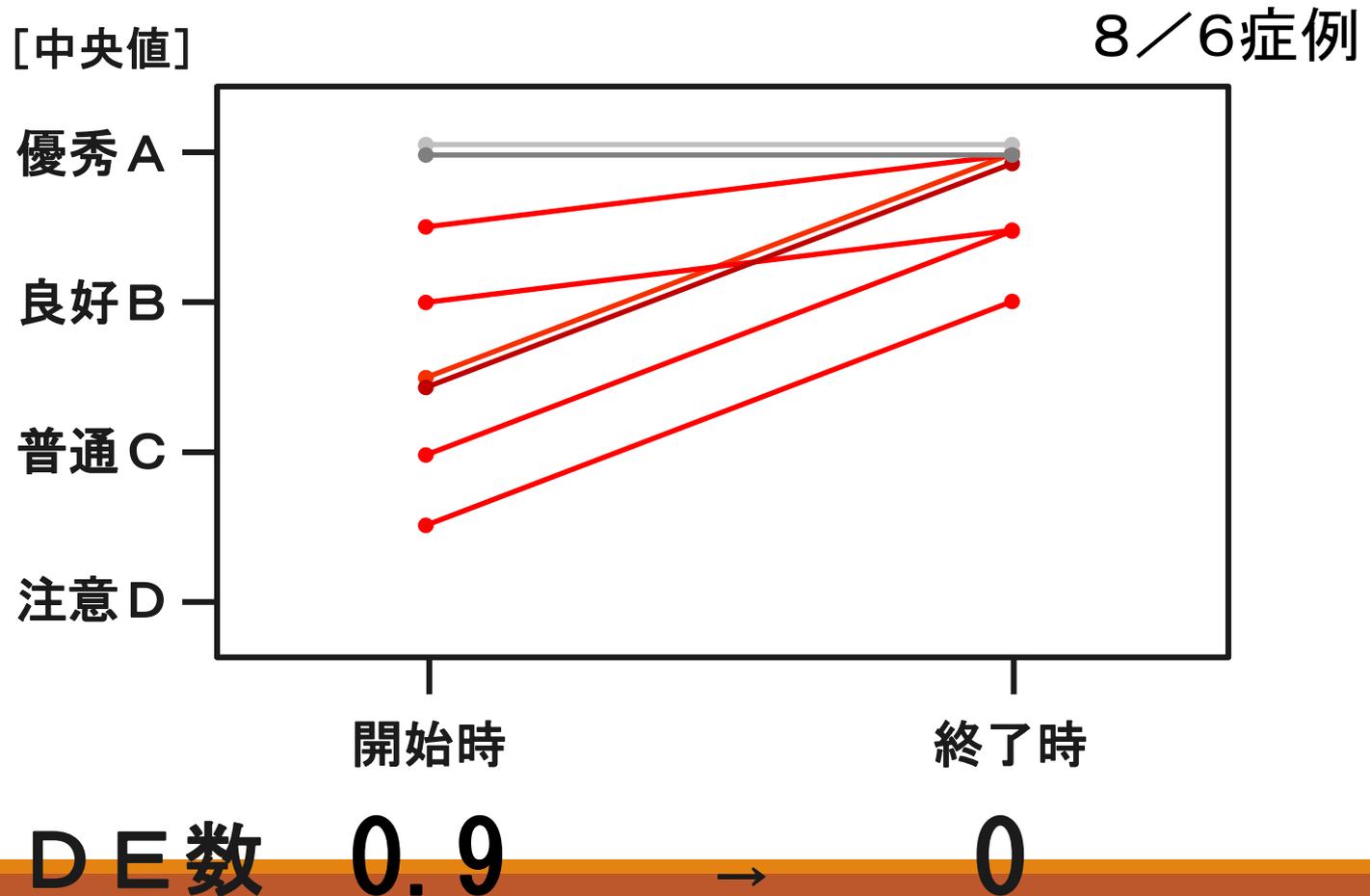
開始時(赤) / 終了時(青)

単純反応	①反応速度の速さ	B	C
	②反応動作のムラ	BC	B
選択反応	③反応速度の速さ	BC	B
	④反応動作のムラ	B	A
	⑤誤反応	B	AB
	⑥判断の速さ	BC	B
ハンドル操作	⑦反応速度の速さ	BC	B
	⑧操作の正確さ	C	A
	⑨左右バランス	CD	C
注意配分	⑩反応動作の速さ	CD	C
	⑪反応動作のムラ	CD	A
	⑫誤反応	BC	A



# 結果③総合学習体験

DS訓練により総合学習体験が改善

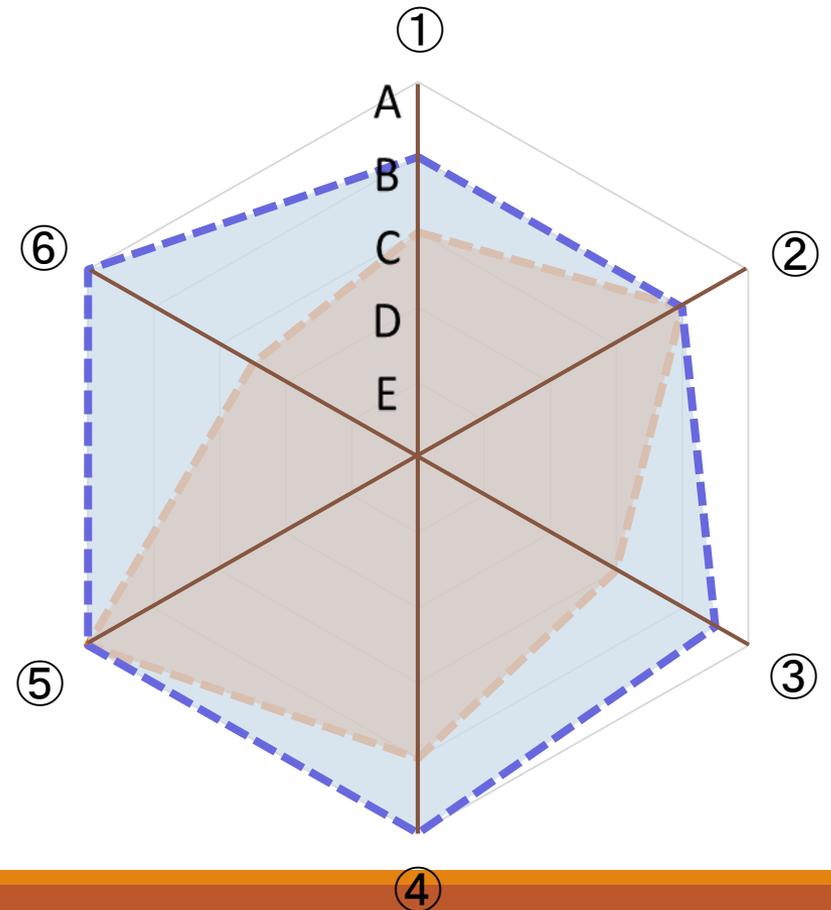


# 結果④総合学習体験

## DS訓練により総合学習体験が改善

開始時(赤) / 終了時(青)

①発進停止	C	B
②合図	B	B
③安全確認	C	AB
④位置	B	A
⑤速度	A	A
⑥全般	CD	A



# まとめ

---

今回、DSによる自動車運転リハビリテーションを8症例に施行した結果、運転反応検査・総合学習体験の改善を認めた。

DSをリハビリ訓練機器として使用できる可能性が示唆された。

# 参考 ～ DS評価結果（A～E）について

## 1. 段階評価

各検査指標についての評価値は5段階の評価とすること。評価値の設定は、該当する人数がおおむね次の表に掲げる割合になるようにすること。

## 2. 標本の基準

A. 各年齢層区分別に必要な数の標本を収集すること。

16～19歳、20～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳、60～64歳、65～69歳、70～74歳、75～79歳、80歳以上

2. 各年齢層ごとの標本数は、男性と女性と同じ数とすること。

評価値	評価値の意味	割合
1 (E)	劣っている	6%
2 (D)	やや劣っている	22%
3 (C)	ふつう	44%
4 (B)	やや優れている	22%
5 (A)	優れている	6%

※高齢者講習用運転操作検査器の基準等より（平成21年，警察庁）